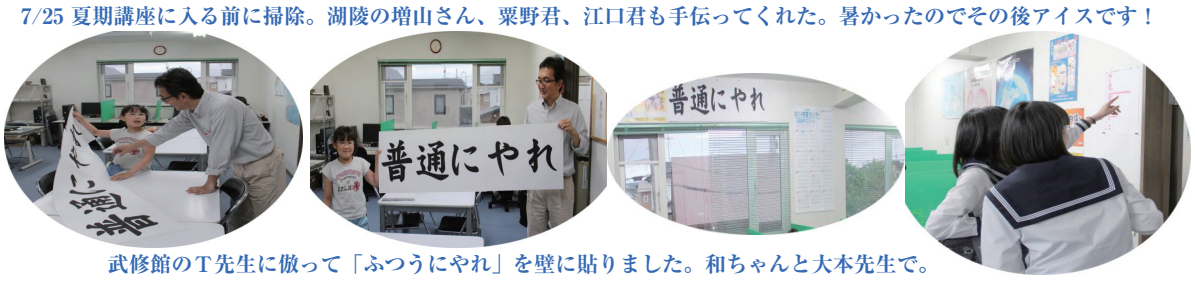
進学通信
ステップゼミナールだより
ホップ・ステップ
8 August
第 94 号
2014 年 8 月 1 日発行

7/25 夏期講座に入る前に掃除。湖陵の増山さん、粟野君、江口君も手伝ってくれた。暑かったのでその後アイスです！



武修館のＴ先生に倣って「ふつうにやれ」を壁に貼りました。和ちゃんと大本先生で。

湖陵の行灯行列 理数科の稲沢君 普通科の石川さんと増山さん

鳥取中の陸上競技会、３年生高橋さんのムカデ競走。スタート前に記念撮影！

麦茶を用意しました！

久しぶりに泉（旧姓）さんが二人目の子供を見せにきてくれた。

いつも元気な市立看護の奈々、春奈姉妹。

7/20 十勝エコロジーパークでキャンプしていた６期生４家族。札幌の帰りに寄ってみた。

ＫＤＳ祭りで活躍する６期生の鈴木君

『２０１４年夏期講座！』

夏期講座が始まりました。受験生も、それ以外の学年の生徒にとっても、夏は勉強における天王山です。ちなみに、天王山とは『勝敗を決める大切な分かれ目』という意味です。

そんな夏を、どのように学習と取り組み、消化したかによって、志望校合格も今後の学力向上も結果が大きく変わります。夏は今まで以上に真剣に学習に取り組んで下さい。

特に中3生は、修学旅行も終わり、部活も終わって夏休み、気が抜ける時期です。しかしここからが入試のための第二段階です。9・10・11月の学力A・B・Cテストに向けてしっかり基本を固めることが夏休みの目標となります。塾での4時間の学習の他に、夏休み中の宿題や予習をしてこなければならない課題もあります。この夏休みが志望校合格の第一歩となるようにしっかり取り組んで下さい。

同じ時間数勉強して結果が違うのは取り組む姿勢の違いだったり自己管理能力の差です。

今、何のために、誰のために勉強するのかをしっかり自覚していれば必ず結果に繋がります。

最近言っている「ふつうにやれ」は、特別なことではなく、ごく当たり前のことをやることです。

ちゃんと挨拶をする、時間を守る、忘れ物をしない、責任を持つ、やってはいけない事はやらない、やらなければならないことはやる。これだけのことですが、これができない人が多過ぎます。勉強も、部活も、日常の生活も「ふつうにやれ」ばいいのです。もう一年の三分の一が過ぎました。時間はあっという間に経ちます。後悔しないように今できることを！

『学力コンクール』

10日は1、2年生で10時30分～2時40分、11日は3年生が10時30分～3時5分の予定で学力コンクールがあります。筆記用具、コンパス・定規を忘れないこと。昼食も必要です。

毎回、昼食を忘れる人はいませんがコンパスや定規を忘れる人が必ずいます。

毎日、今日の行動に何が必要なのかを必ず確認する事を心がける事、できれば前の日うちに準備しておくと忘れ物をすることはないはずです。

要するに常に意識して行動することが必要だということです。

当然ですが忘れ物をしない人、同じ事を何度も言われない人が成績の良い人、成績の向上する人です。頭の良さではありません。

『漢字検定合格者』

二〇一四年第一回漢字検定合格者

準2級　須貝くるみ
3級　諌山莉奈　土井優奈　土井真奈　酒井学
4級　山上彩夏　成瀬京　伊藤綾那　高橋沙和
5級　富岡菜紘　谷口充汰　村形洸春　谷口勇大　山岸冬弥
6級　菅原皐誠　藤田勇人　佐藤遥斗　早川伊吹
8級　成瀬和　片岡桜子
10級　野澤美羽

26名が受検し19名の合格。合格率は73％でした。今回、4人が2級を受検しましたが合格者はいませんでした。次回11月の合格を目指して今回できなかった項目の練習を今からやっておきましょう。

■8月の予定■

1	金	■夏期講座（午前9時～午後6時まで）
2	土	〃
3	日	〃
4	月	〃
5	火	〃
6	水	〃
7	木	〃
8	金	〃
9	土	〃
10	日	●1・2年生学力コンクール
11	月	●3年生学力コンクール
12	火	■夏期講座
13	水	お盆休み
14	木	お盆休み
15	金	お盆休み
16	土	お盆休み
17	日	■夏期講座
18	月	■夏期講座最終日
19	火	新学期準備休み
20	水	●通常授業スタート
21	木	
22	金	
23	土	
24	日	休塾
25	月	
26	火	
27	水	●附属中定期テスト ●学力テスト
28	木	
29	金	
30	土	
31	日	休塾

携帯電話の教室持込禁止
携帯電話の持込は禁止。連絡は塾の電話を使用して下さい。

発行：ステップゼミナール　088-0617　釧路町北都２－２－１　（TEL）0154-36-4170　HP：http://www.stepsemi.com　Mail：spirits@stepsemi.com

『相次ぐ「３学期制」復活』・・・「通知表少ない」 ２学期制に保護者不満も

１０年ほど前から、全国の小中学校で導入が進んだ２学期制を元の３学期制に戻す動きが、目立っている。

始業式や終業式、定期テストの回数を減らし、授業時間を増やすのが目的だったが、長期休暇の短縮や土曜授業の実施で対応する学校が増えてきた。２学期制は通知表の回数が減るため、保護者の不満もあったようだ。

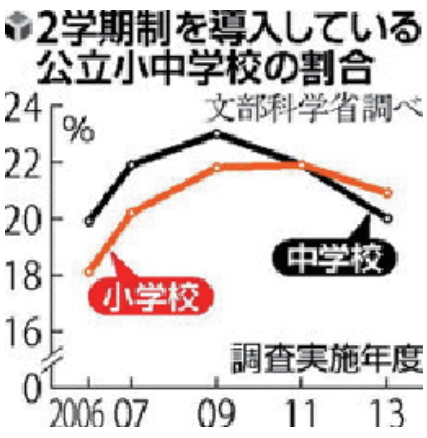
今春、１０年ぶりに３学期制を復活させた横浜市立潮田中学校。６月末、３年４組の教室では、国語の馬場美代子教諭(56)が生徒に声をかけながら、期末テストの答案を返していた。

昨年度までの２学期制では、前期の期末テストを夏休み後の９月半ばに行っており、通知表は１０月に渡していた。３学期制では、期末テストは６月下旬で、夏休み前に通知表も渡される。「夏休み前の個人面談で、学習や生活面のしっかりした評価をもとに保護者、生徒と話ができる」と馬場教諭。津嘉山大輔君(14)も「自分の弱点に早めに気づき、受験に向けた勉強の仕方も見直せる」と話した。

同中は２００４年度に２学期制を導入し、授業時間を約２０時限増やした。３学期制に戻しても、終業式の日に授業を行うなどして授業時間を確保するという。

横浜市教委によると、０２年度の週５日制完全実施後、市立小中学校の大半は２学期制に移行したが、３学期制に戻す学校が１０年頃から増え始めた。今年度は小学校３４２校のうち２３校（６．７％）、中学校１４８校のうち５８校（３９．１％）が３学期制を導入している。

文部科学省の全国調査でも、１３年度に２学期制だった公立小は、１１年度比で１ポイント減の２０．９％、公立中も同１．９ポイント減の２０％と、減少傾向にある。１３年度は群馬県高崎市、高松市など、今年度は金沢市、岡山県倉敷市などで全公立小中学校を２学期制から３学期制に戻した。



約４割の小中学校が２学期制だった埼玉県久喜市では、今年度から全校が３学期制に。保護者に事前に実施したアンケートでは、「通知表の回数が少ない」といった理由で、３学期制を希望する回答が４７％と、２学期制を望む回答の３倍に上った。「短期間で評価される方が挽回の機会が多く、集中して学習できると考える保護者も多いのでは」と同市教委。冬休みを２日間短縮するなどして授業時間を確保する。

一方、仙台市では、「２学期制は授業時間が確保しやすい。長期休暇前の保護者面談などで学習や生活の状況は細かく伝えている」として、見直しの予定はないという。

学校のカリキュラムに詳しい葉養正明・文教大教授は、「学期制を変更する場合は、子どもや保護者が戸惑わないよう十分に趣旨などを説明することが大切だ」と指摘している。（広中正則）　　YOMIURI ONLINE 2014.07.14 より

復習の習慣作る家庭学習ノート 秋田の秘密 (4)

YOMIURI ONLINE　2014.07.03 より

「全国学力・学習状況調査」（全国学力テスト）で、秋田県の好結果は各教科の平均正答率だけではない。

家で授業を復習する子どもの割合も毎回高く、２０１３年度は小学６年生で８９％（全国平均５１．４％）、中学３年生で８２．５％（同４８．６％）に上る。

背景にあるのが、家庭学習用のノートの普及だ。

県南東部、横手市立旭小学校で５月下旬、丹尾豊美教諭（42）が担任する３年生の帰りの会で、「家で工夫して書いたお友だちがいます」とＢ５判のノートを掲げた。開くと、丁寧な字で算数の問題や式、解答が書き込まれていた。「小テストで苦手だったところの復習です。参考にしてください」と呼びかけた。

家庭学習用のノートは、県内の小中学校の一部で４０～５０年前に使われ始め、全県に広がった。ノートの呼び名は様々だが、学習内容が指定される宿題とは別に、児童生徒が自ら勉強内容を決め、毎日１～２ページを埋めることで共通している。担任らが朝受け取り、その日のうちにコメントを書き込んで返却する。

同小では、２年生後半～３年生頃からノートを使う。上手なノートのコピーを教室に貼り出すなどして、子どもたちのやる気を引き出す。

同小５年の大友豪大君（10）は毎日夕食後、自宅のダイニングテーブルでノートを広げ、漢字と計算の練習問題をしている。漢字の横には読み仮名を書き、読みと形を一緒に覚えるよう工夫。計算問題は解いた後、自分で答え合わせをする。

「全部丸だとうれしい。漢字は苦手だったけど、ノートで練習したらテストで１００点が取れるようになった」と大友君。今では「ノートをしないと落ち着かない」。母の真由子さん（43）は「夏休みもお正月もノートに向かうことになっている。家庭学習の習慣がしみこんでいる」と喜ぶ。

同市に隣接する大仙市の市立協和中学校では、ノートの提出先を、曜日によって担任、部活動の顧問、校長・教頭らに替え、全教員で全生徒を指導する。藤本竜伸校長（57）は「教員は自分のクラス以外の生徒にも声をかけやすくなるし、生徒もいろいろな視点からアドバイスをもらえる」と効果を感じている。

県出身で、出版社「主婦の友社」（東京都）の編集者を務める中野明子さんは０９年、秋田の家庭学習用のノートを紹介する書籍を出版し、１１年には続編「秋田県式家庭学習ノートで勉強しよう！」を発行した。「ノートは自分で勉強内容を考えるので、積極的に学ぶ姿勢や創造力が身につく」と中野さん。関心が高く、続編は６月にも増刷をした。

勉強で成果を上げるには「コツコツやる」こと、「繰り返す」こと、「しっかり復習をする」ことが大切なことは、いつも言われる事でみんなが知っています。学力の差はこのことができる人とできない人の差です。

塾でも同じことが言えます。塾に来ているだけで成績が上がるのではなく、家庭学習の取り組みの良い人が結果の出せる人です。毎日でる宿題の直しをしっかりやる人、やらない人、ノートの使い方の良い人、悪い人、差は歴然としています。とにかく家庭学習の習慣を身につけることが学力向上の全てです。自分のために！

地域医療 高校生の視点で

釧路 湖陵3人、学会で発表

医療の道を志す釧路湖陵高校の生徒たちが4日、釧路市内で開かれている医療学会に初参加した。病院への取材などを通して知った地域医療の現状や課題などを発表し、医療現場の最前線で活躍している医師たちに日ごろの活動の成果を披露した。

同校の生徒が参加したのは、4、5日開かれている神経学などに理解を深める学会「釧路ニューロサイエンスワークショップ」。特別企画として高校生が発表、意見交換する機会を設け、学会側からの呼び掛けで同校で医療分野への進学を希望する24人が参加した。

地域医療の現状を知るため、実際に市立釧路病院を取材した3年生の恒川睦樹さん、小笠原亜美さん、稲沢勁周さんが「良い医療の提供のためには」と題して発表。夜間勤務の実情、無医地区での取り組み、最先端医療などについて報告し、病院間や行政との連携の重要性を強調した。

参加した医師は「学生時代からへき地医療を自分の目で知ってほしい」「連携には人もお金もかかるので、もっとよく知ってほしい」などと助言し、小笠原さんは「医師の前で緊張したが、楽しく発表できた。連携についてもっと勉強したい」と話していた。昨年、宮古島で開催された学会に参加した高校生との意見交換も行われた。（戸田英吾）

医療学会で地域医療の現状や課題などを発表する釧路湖陵高の生徒たち